

甲賀広域行政組合湖南中央消防署庁舎整備に係る基本的な考え方

1 基本構想

甲賀広域行政組合消防本部は、昭和 48 年に旧甲賀郡（7 町）によって甲賀郡行政事務組合が設立され、平成 16 年に 2 町が湖南市に、5 町が甲賀市にそれぞれ合併したことに併せ、名称を甲賀広域行政組合消防本部とし、発足以来 50 年目を迎えました。この間、消防力の充実強化を進めるとともに、安定した消防サービスの提供に努め、令和 5 年 11 月 1 日現在、管内人口 143,115 人に対し、1 本部、4 消防署、3 分署体制を執っております。また、現在消防職員定数は 204 名となっておりますが、再任用制度の導入や職員年齢構成を考慮した定員適正化を推進しております。しかしながら、近年は警防予防業務の多様化、救急業務の高度化、大規模化する災害への迅速な対応策として広域連携の強化など、消防に対する市民のニーズはますます増大しており、市民の安全安心を確保するためには、さらなる消防力の充実・強化が必要であり、社会環境の変化に即応した防災拠点施設の整備が急務となっております。

そのような中、構成市である湖南市を管轄する湖南中央消防署は、昭和 55 年に建設されて以降 43 年が経過し、庁舎の全体的な老朽化が進み、大規模災害時には防災拠点として十分な機能が果たせないことが明らかとなっております。加えて平時においても、勤務人員増による執務スペースや消防車両の大型化による車庫スペースの狭小化、IT 化による機器の増設、予防協議や各種指導等における協議スペース不足が顕在化している状況です。消防庁舎の現状と課題を抽出し検討すると、現代社会においては、地球環境への対応として省資源・省エネルギーに対応した設備の整備が急務とされ、現代のニーズに応えられるよう、災害に強く、人と環境にやさしい機能的な庁舎の整備が必要となることから、今後も改修等を繰り返し対応していくには限界があり、これらの課題を解決し、消防庁舎としての機能を発揮するためには、早期の建替えが必要と考えます。

2 甲賀広域行政組合消防本部の各署所の庁舎概要比較表

名称	用途	階数	構造	延面積	敷地面積	建築年月
消防本部 水口消防署	庁舎・車庫	4F	RC造	3672.93 m ²	8102.86 m ²	H11.3
	附属棟	1F	RC造	72.21 m ²		
	主訓練塔	6F	RC造	308.16 m ²		H12.3
	副訓練塔	2F	RC造	218.14 m ²		
	補助塔	2F	S造	20.00 m ²		
土山分署	庁舎・車庫	1F	S造	350.88 m ²	1896.00 m ²	H20.2
甲南消防署	庁舎・車庫	1F	S造	802.60 m ²	3679.00 m ²	H24.3
甲賀分署	庁舎・車庫	1F	S造	209.17 m ²	1231.97 m ²	H17.3
信楽消防署	庁舎・車庫	1F	S造	762.50 m ²	3276.17 m ²	H15.3
湖南中央消防署	庁舎・車庫	2F	RC造	616.93 m²	1337.32 m²	S55.3
湖南石部分署	庁舎・車庫	2F	S造	356.91 m ²	661.50 m ²	H17.3

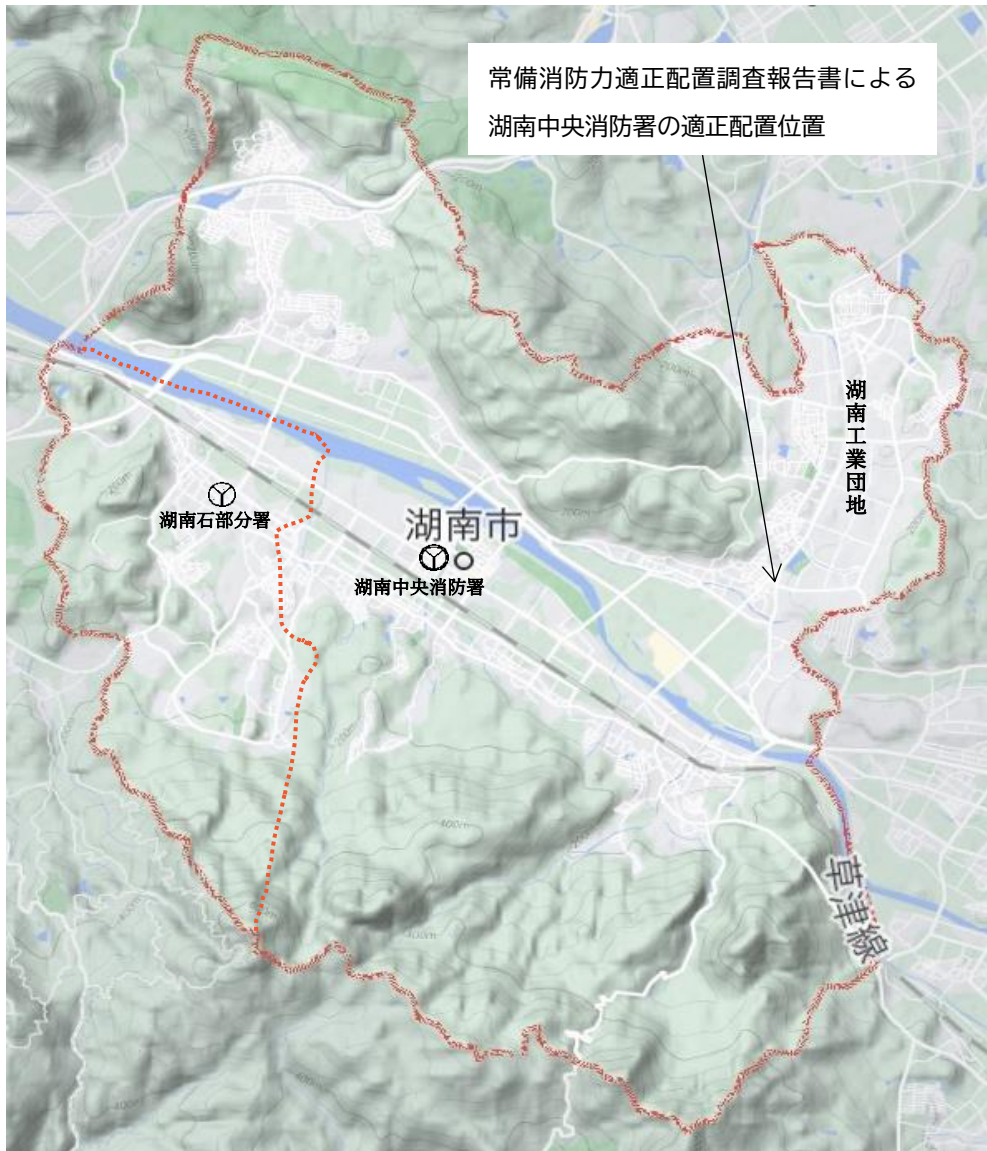
3 湖南中央消防署建替えに係る課題と検討事項

(1) 立地に関する課題

湖南中央消防署と湖南石部分署との管轄エリアの割合

湖南市は、野洲川周辺の平野部をはじめ、市東部と西部に人口の多い地域が広がり、さらに市北東部には県下有数の工業団地が立地しています。消防庁舎の配置状況を見ると、湖南中央消防署は市の中央に、湖南石部分署は市の西寄りに位置していることから、双方の管轄エリアは市の西寄りに偏っており、双方の管轄エリアが重複している状況です。

よって、新たな湖南中央消防署の位置は、常備消防力適正配置調査報告書の調査結果を踏まえると、湖南中央消防署と湖南石部分署の2つの拠点の管轄エリアが均等となる市の東寄りに位置するとともに、市の南北方向へのアクセスが容易な位置へ移転することが理想と言えます。このことは、甲賀・湖南地域全体を見た場合にも管轄エリアを互いに補完しあえる位置でもあります。さらには、湖南石部分署が野洲川以南、湖南中央消防署が野洲川以北といった、湖南市の地形の特性を捉えた位置に湖南中央消防署を立地させることにより、より一層の地域防災力強化に繋がられるものと考えます。



(2) 庁舎に関する課題

ア 耐震性能の不足と老朽化

湖南中央消防署は昭和 55 年 3 月に建築され、旧耐震基準が適用された建物となり、平成 29 年度に実施しました耐震診断においては、耐震性能が不足しているとの判定を受けました。耐震診断における I_s 値（構造耐震指標）につきましては、その値が 0.197～0.713 となり、耐震性能を有するとされる 0.6 を大きく下回る箇所が多数存在しています。また、大規模地震発生後もその機能を十分発揮できる施設（災害応急対策活動に必要な施設）として要求される I_{50} 値（構造耐震判定指標）から見ると、 I_{50} 値 0.9 を大きく下回っていることが判明し、耐震性能が不足しているとの診断を受けました。一見すると鉄筋コンクリート造の

頑丈に見える躯体ではありますが、このような各指標は建物の脆弱性をより鮮明に示しているものであることから、将来その発生が危惧されている南海トラフ地震や琵琶湖西岸断層帯などが引き起こす大規模地震に耐えうる庁舎の早期建設が望まれるところです。また、庁舎全体に老朽化、不衛生化が散見され、改修を繰り返し対応していくには限界がある現状です。

イ 車庫の整備不良

湖南中央消防署では、計7台の車両を配備し、日々の災害に対応しています。特に消防車両については、大型・中型車両が中心となっており、車庫内にすべての車両を収めることはできず、簡易的なカーポートを増設したり、雨ざらしの駐車場に駐車しているのが現状です。また、消防車両は隊員が乗り込むために必要な最小のスペースのみを確保し収めているため、出動時の接触事故等防止の点からも、車庫スペースの十分な確保が必要と考えます。

また、湖南中央消防署の車庫にはシャッターがありません。車庫のシャッター設置については、これまでも様々な検討を行ってきましたが、車庫に入る消防車両と天井スペースとの間隔が十分でなく、シャッターの設置は難しい状況にありました。さらに、車庫の奥（西側）では、災害出動時に着用する防火服をはじめとした隊員の装備を常置していますが、過去には防火服が盗まれ、競売にかけられるという被害も発生していることから、盗難防止の意味からもシャッターの設置は重要であると考えます。併せて、車庫のシャッターは、雨風をしのぎ、車両の劣化を防止するだけでなく、風雪時には、車両前部やフロントガラスの積雪・凍結、又、消防車両に積載するタンク水の凍結を防止し、冬季における迅速な出動・的確な災害対応に備えるためにも重要なものと考えられます。

消防車両の大型化につきましては、湖南中央消防署では、大型車両であるはしご車をはじめ、救助工作車や化学車、タンク車など、免許区分では中型車ではありますが、車体全長の長い車両を備えています。これには湖南中央消防署が、湖南市において重要な防災拠点の一つであるばかりでなく、京都・大阪圏からのベッドタウンとして住宅が多く建ち並ぶことや、湖南工業団地をはじめとした工業地帯を有することから、万一の災害発生時に必要な能力を有する消防車両が必要であり、ある一定の大きさのある消防車両を配備しているものです。よって、新庁舎を計画するにあたっては、盗難防止はもちろんのこと、車両の維持・整備に

適した一定の広さを有する車庫の設置が望まれるところです。

ウ 事務室の拡張と協議室等の整備不良

湖南中央消防署では、現在一日最低勤務人員が 10 名でありながら隣り合う職員が接触するなど狭隘なスペースでの事務作業を行っています。事務机は、2交代制を考慮すると、最低 2 人に一つ必要であると考えますが、事務机を定数配置できるほどのスペースもなく、若年職員はその日空いている机を適宜使用しているため、煩わしく、業務の非効率化が懸念されるとともに、多数の者が共用することによりあらゆる感染症の感染拡大も憂慮されます。また、事務室に書庫を有しておらず、各種書類等を保管する書棚も事務室内に設置しているため、事務スペースをさらに圧迫し、地震発生時の書類の落下や棚の転倒などが危惧されます。さらには、予防業務等の各種協議でも、協議室が 1 箇所のため、協議重複時は廊下や事務室内で協議しており、秘匿性の高い会話や建築図面などを広げる場合、そのスペースが確保できず、職員のみならず来庁者にも協議のしづらさといった面で負担を強いています。また、定員適正化を推進する中で、将来的な定数増員等も想定した事務スペースが必要となります。

エ 狭隘な仮眠室の改善と感染防止対策

湖南中央消防署の仮眠室は、職員の更衣室も兼ねて更衣ロッカーを設置しており、非常に狭隘なものとなっています。現在の仮眠室では、1 当務に勤務する職員（10～11 人程度）が仮眠できるよう 2 段ベッド 5 台、1 段ベッド 2 台、2 畳の畳スペース 1 箇所を配置するとともに、仮眠室は更衣室も兼ねて更衣ロッカーを設置していることから通路は狭く、これ以上仮眠ベッドや更衣ロッカーを配置するスペースがないのが現状です。さらに、新型コロナウイルスの感染防止対策として、仮眠用ベッドに仕切りカーテンを設けていますが、当該感染症流行前でも、インフルエンザに職員が感染すると、その後 1 週間から 10 日の間に職員の感染が顕著になるなど、狭隘スペースに職員が集まるのが感染拡大の要因の 1 つと思慮されます。よって、今後、定員適正化を検討する中で職員増員がなされた場合を想定しても、生活スペースを確保することが困難であり、現状では、これ以上の職員増員は困難な状況にあり、感染拡大防止の点からも、個室化した仮眠室の整備が必要と考えます。

オ 女性消防職員用施設及び女性来庁者用トイレの整備不良

本消防本部では、職員全体に対する女性消防職員の割合を、国が示す令和8年度までに割合5%を目標として、女性職員の採用を図るとともに、現に在籍する女性職員の職域拡大を目指し、さらなる女性活躍推進を目指しているところがあります。しかし、水口消防署及び甲南消防署以外では、女性職員が勤務するに必要な施設がないことから、湖南中央消防署においても女性職員の配置は困難な状況にあり、女性職員の職域拡大の点からも整備は急務であると考えます。また、湖南中央消防署では、1、2階にトイレがありますが、女性専用トイレはありません。女性の来庁者がトイレを使用する場合は、扉に「女性使用中」プレートを設置し対応していますが、使用する者からすると、男性用トイレを使用することに対する不快感や、プライバシー保護の観点からも嫌悪感は否めない状況です。

カ 訓練施設の整備不良

湖南中央消防署では、災害時での適切な対応を目的として、日頃から様々な訓練に励んでいます。しかし、訓練施設が併設されていないため、高所からの救助訓練や建物火災訓練では、事務室を利用するなどしており、例えば降下訓練等に必要なロープの固定場所がないなど、災害現場で基本的に必要な活動に対する、日頃の訓練が十分行えない状況となっています。また、事務室を使用することで、一般の来庁者に対する行動制限や事務作業中の職員に対する制限が伴ってきます。さらに、消火訓練においても、事務室を利用していることで、事務所内が水浸しになるため、内部への放水はおろかホース内への充水もできません。これでは、現場を想定した訓練とは遠くかけ離れ、消防力の低下だけでなく、ひいては実際火災現場においても有効な活動が出来ないおそれがあります。

キ 救急資器材洗浄スペースの整備不良

現在、出動後の資器材洗浄、特に蘇生用資器材や気道管理用資器材の洗浄は、職員手洗い用として設置された2箇所の陶製の洗面台のうちの1つを、ステンレス製のシンクに取り換え、このシンクを救急資器材洗浄用として使用しているのが実態です。さらに、洗面台とシンクの設置間隔は40cm未満と近いため、洗面台とシンクの間には衝立を設け、職員が使用する洗面台に救急資器材洗浄中の水滴

や汚物が飛散しないよう措置し、衛生管理を行っています。新型コロナウイルス感染症の流行以前からもそうですが、災害現場の最前線に向かう隊員にとっては、様々な感染症（例えば、風疹、麻疹、水痘（みずぼうそう）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、さらにはインフルエンザなど）への感染リスクを伴いながらの活動が常となっております。災害現場では、各隊員が一定の感染防止措置を取りながら活動しておりますが、災害現場から戻った後の資器材整備については、引き続き感染リスクを伴うこととなります。特に救急関係資器材は、直接、傷病者の方へ触れる資器材を取り扱っているため、使用後は適切な洗浄を行い、乾燥・滅菌させることが重要となります。このような点からも、職員が生活面で利用するスペースとは一定隔離した救急資器材洗浄スペースと、乾燥、滅菌処理、さらには滅菌後の資器材保管ができる施設整備が望まれるところです。

4 新しい消防庁舎に必要な機能

- (1) 十分な耐震・耐火性能を備えた施設
- (2) 女性消防職員の職域拡大と活躍推進の実現
- (3) 業務効率を考慮した機能性と実践的で効果的な訓練が可能な施設の整備
- (4) 一般市民への開放性及びユニバーサルデザインの積極的採用
- (5) 省エネルギー設計によるエコロジカルな設備の推進
- (6) 各種感染症等に対応した衛生管理体制の強化

5 終わりに

近年、日本社会全体は、人口減少時代への突入に伴う生産年齢人口の減少、高齢者世代の増加に伴う医療費の増大、さらには地方自治体における税収減少に伴う地方財政の逼迫が、現実的なものとなりつつあります。

また、世界的な情勢不安や新型コロナウイルス感染症等の新たな感染症の流行、さらには地球温暖化による台風や豪雨災害の頻発が、社会全体を不安にし、経済活動を後退させる要因が次々と発生している状況にあります。

このような中、ある一つの地域において、そこに暮らす人々が安全・安心に生活を送るにはどのような取り組みが重要か長期的視点に立って考えたとき、医療福祉の充実とともに地域防災力を強化することが、人々の将来への不安を払拭し、より良い地域の発展に繋がる一つの重要な要素と考えます。